

福島県PTA連合会会報
第86号_H23. 12. 09

PTAふくしま

第 86 号

福島県PTA連合会
編集／調査広報委員会
印刷／泉印刷所



全国のPTAに感謝



福島県PTA連合会会長
佐藤 辰夫

佐藤 辰夫

日本PTA全国研究大会ひろしま大会が、去る八月二十六日、二十七日の両日、『きんさい！みんない！やりんさい！子どもたちの笑顔のために「がんばろう日本！平和な未来へ」をスローガンに開催されました。被災地を思い、子どもを未来を思う全国のPTAが広島県に集いました。震災直後には大会中止の声が上がりましたが、この声を消したのは被災地東北各県PTA連会長でした。大会は随所に被災地への配慮を施した温かいものでした。分科会は「平和教育」に参加をし、平和への心を継承し、未来へ繋げていける子どもたちを育てるために私たちPTAが出来ることは何かを話し合いました。全体会では乙武洋匡氏の記念講演の後、「がんばろう日本！がんばろうPTA！の復興支援コンサート」が開かれました。ステージには被災地の各県PTA連会長が登壇し、広島の子どもたちと一緒に合唱しました。そして全国からの義援金を私が代表で頂きました。会場全体が復興への思いを募らせ、共に涙

を流し全国のPTAが一つになった瞬間でした。
今大会参加のもう一つの目的は、全国の子どもたちから福島の子どもたちにメッセージを頂くことでした。二十五名の参加者が、私のメッセージと色紙、起き上がり小法師と一緒に手渡し呼びかけました。すでに皆様の学校へも全国から色紙が届いているかもしれません。今までに大変意義深い大会でした。
震災後、子どもたちがいじめ、差別を受けるのではないかと懸念し全国に呼びかけた時、広島県PTA連会長が、一緒に全国のPTAに呼び掛けてくれました。また、十一月には熊本県PTA連大会へ参加をしました。五十五年経った今でも続いている水俣病への差別、偏見を福島県に重ね合わせ、多くのメッセージを頂きました。震災以降、本県には全国各地から支援、応援メッセージ等が届けられ改めて仲間の熱い思いに感動しています。今後関係機関への働き掛けを行ってまいります。子どもたちのために共に前へ進みましょう。

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

集 特

「くじけないで」〜東日本大震災〜②

◆東日本大震災・その後◆

「不撓不屈」

福島市立吾妻中学校PTA会長

藤原 聡

本校は、福島市西部吾妻山の麓に位置し、四方には水田と果樹畑が広がり、緑豊かな学校です。

二百七十六名の生徒は、それぞれに夢や希望を持ち、その目標の実現に向け、日々努力しています。

地域の方々にも支えられ、子どもたちが日々成長していく姿は、私たちPTA活動の大きな励みになっています。

しかし、三月十一日に発生した東日本大震災。特に福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染は、いまだ対応の先行きが見えない状況にあります。

私たちも先生方も、ましてや子どもたちも今まで経験をしたことのない事態に、どのように向き合い、どう対策を講じればよいのか悩む毎日が続いています。今年予定された活動も一部中止、延期せざるを得ませんでした。

そんな中、子どもたちの安全、保護者の安心を得るため、緊急メールシステムを活用して、屋内

外の放射線量を保護者に対し、継続的に情報発信をしていただきました。

専門機関に依頼して、空間線量及び土壌のモニタリングを実施し、分析結果は、放射線対策に役立てております。

夏休み前には生徒を対象とした「放射線に関する講座」を行い、併せて多数の保護者にも参加をいただきました。

また、学校文化祭には、子どもたちに内緒でサプライズゲストを呼び、全身で喜びを爆発させる子どもたちの姿は、私たちにも活力を与えてくれました。



子どもたちが安心して、楽しく学校生活がおくれる環境づくり、保護者の不安を少しでも軽減することなど、今できることをご理解、ご協力をいただきながら進めています。

校庭の表土改善作業、校舎の除染作業が終了し、少しずつ屋外での活動も行われるようになり、子どもたちの活気あふれる声が響いてきました。

復興するまでには、まだまだ時間がかかると思います。しかし未来を担う子どもたちが、しっかりと夢や希望を持ち、前向きに一つ一つ着実に歩んでいけるよう、私たちPTAは今後も子どもたちをサポートしていきます。

避難された小学校を受け入れて

川俣町立川俣中学校PTA会長

三浦 正一郎

川俣中学校では、計画的避難区域の指定を受けた飯館村の草野・飯樋・白石小学校の児童の皆さんを四月二十日より受け入れて学校生活を行っています。

四月二十二日には、これから一緒に学校生活を送ることになる小学生が、少しでも安心して生活できるようにと生徒会主催の歓迎式を開きました。

授業では、校庭や体育館、音楽

室などの特別教室を話し合いによつて融通し合いながら使用するという状態が続いていますが、生徒たちは不自由の中にも相手を思いやる気持ちや、工夫や協力をし、前向きに活動の取り組みたくまじさが身についてきたように思います。

PTAでも、川俣町が第二のふるさとと思っていたけるように支援してまいりたいと思います。



今を一生懸命

山木屋小・中学校PTA会長

廣野 義孝

私たちの学校は計画的避難区域にあり、入学式後わずか一週間で、穏やかな自然に満ちた学び舎を離れました。

四月十八日より、同じ町内にある別の小学校にお世話になっております。小規模校ゆえに保護者と先生方の連携が取れていたことと、受け入れていただいている学校の先生方、保護者の皆さんのご協力とご配慮により、子どもたちは懸命に前へ進んでくれています。県内には同じように避難を強いられている子どもたちや、受け入れていただいている学校が沢山あります。

また、健康不安を感じている保護者も沢山おられると思います。困難な状況でも一生懸命な子どもたちに、恥じないような行動を心がけています。

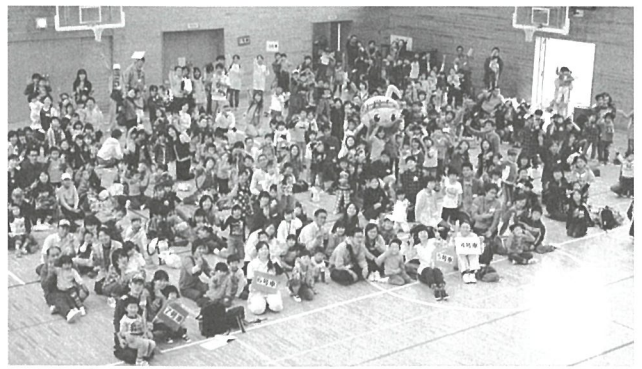
しっかりと子どもを支え前へ進むのが親の役目だと思います。

くじけない

郡山市PTA連合会会長

伊藤 典夫

「子どもたちの安全・安心を守る活動」をスローガンに今年度がスタートした。放射能からいかに子どもたちを守るか、安全・安心はどのようにすれば確保されるのか。連日、行政機関との話し合いや要望を重ねてもなかなか前進しない現実にジレンマさえ覚えた。郡山は学校グラウンドの除染は、どこよりも早く行われたが、地域一体となった除染活動は停滞してし



自分のこととし行動することが子どもたちの未来に繋がっていくと思います。今後も各郡市P連の方々と情報交換を行いながら、前進したいと思っています。

郡山は、震災により被災してしまった学校、放射能数値の高い学校の悩みがあります。しかし、「郡山で生きる」そう覚悟した人たちが安心して暮らせる、そんな願いと、郡山から離れた人が、もう一度安心して戻る郡山に一日も早く戻るよう、不屈の心で、これからは進んでいく覚悟であります。

「子どもたちのために…」

いわき市PTA連絡協議会会長

染谷昌彦

まった。「子どもたちを安全・安心な所で思いっきり遊ばせたい」、誰もがそう思っていた時、自分たちで子どもたちを安心して遊ぶことができる「湖南町へ連れて行く」という話が出た。役員が一丸となり「オータムキャンプin湖南」が十月二十三日に行われた。参加者は親子合わせて三百五十名、スタッフ五十名の四百名が湖南の地で楽しい一日を過ごした。また、地元の方々の絶大なご支援をいただき、昼食は全て地元の方々の手作り料理、千本杵餅つき大会等、内容盛り沢山であった。今、私たちに求められていることは、しっかりと考え、責任ある行動ではないでしょうか。全てを

三月十一日、東日本大震災の被害を受け、いわき市は以前とは全く違うものとなってしまいました。いわき市でも被害の規模は様々であり、沿岸部の学校は校舎が全滅している所もあります。その学校は震災から八カ月以上も経った現在も他校に間借りして、授業を行っている状況にあります。津波の被害を直接受けていない学校も、放射線量が高いため、校庭での活動ができない状態におかれ、除染をして、ようやく使用できるようになりました。校舎や校庭の問題は解決の方向

ていければよいと考えております。

「共に手をたずさえて」

猪苗代町立東中学校PTA会長

渡部栄昭

三月に発生した東日本大震災、その後の原発事故は、私たちに大きな被害と困難をもたらしました。

私の住む猪苗代町においては、地震による被害はあったものの、原発から八十キロ程の距離があり、放射線量も比較的低いことから、被災地から避難を余儀なくされた方々の避難所が設けられ、町内の小、中学校においても、児童生徒の受け入れがありました。

私の子どもの通う中学校にも生徒の転入があり、例年とはちがう雰囲気の中スタートした今年度ではありましたが、学校の先生方はじめ関係機関の皆様のご尽力により、大きな混乱もなく、子どもたちが学校生活を送ることができていることに、あらためて感謝申し上げます。

日を追うごとに、子どもたちの笑顔と明るい声が校舎に、地域に響きその声を聞くことで私たちも明るく元気にしてもらえるように思います。

しかし、明るく見えるとはいえず、今回の大震災が、私たち大人

だけではなく、子どもたちにとっても、今までの生活や将来を考えるうえで、大きな節目になったことは間違いなくと思います。

千年に一度といわれる大震災、そして原発事故により放出された放射能汚染。

この先、生活していくうえで、それだけの影響があるのか、そして、いつ収束するのか、言葉にならない不安があります。

しかし、私たちは子どもを持つ親として、地域の大人として、子どもたちが安全に安心して生活し成長していくことを望むものとして、恐れや不安ばかりを感じるのではなく、正しい知識を身につけて冷静に対応していくことが求められると考えます。

そうしたなか、保護者の意見もあり、PTA主催による、放射線に関する講演会を関係者のご尽力により開催することができました。生徒と保護者の参加のもと、有意義な学びの時間が持たれたことは、大変良かったと感じました。ただ恐れ、不安を感じるのではなく、正しく学び、正しく恐れるという姿勢が大切であると感じた講演会、勉強会であったと思います。

今後も、子どもたちのため、様々な困難の多い長い道のりではありますが、共に手をたずさえ歩んでまいりたいと思います。

晴れの表彰

おめでとうございます

ございます

一、文部科学大臣表彰優良PTA

(三団体)

・須賀川市立第一小学校

父母と教師の会

・棚倉町立岡山小学校PTA

・福島県立あぶくま養護学校PTA

二、日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体表彰(二団体)

・二本松市立油井小学校

父母と教師の会

・いわき市立桶売小・中学校

保護者と教職員の会

◇個人表彰(四名)

・佐藤 厚潮 (県P連前副会長)

・渡部 英明 (県P連監事)

・渡辺さゆり

(県P連母親代表理事)

・勝見 州良 (県P連研修部長)

三、東北PTA連絡協議会会長表彰

◇団体表彰(八団体)

・伊達市立五十沢小学校PTA

・二本松市立塩沢小学校

父母と教師の会

東北P秋田大会レポート

県PTA連合会副会長

佐藤 壮一郎

特別プログラムは、三部構成になっており、パフォーマンス1は、秋田出身で、毛筆デザイナーの佐藤佳奈先生です。先生は、古典書道を基本としつつデザイン性に富んだ文字で主に店舗ロゴや商品ロゴを手がけ活躍している方です。

先生の力強い筆の動きが、震災で打ちひしがれた東北が、これから復興しそして新しい東北に動き出すというメッセージに感じられました。がんばろうという言葉だけでなく、先生自身が東北県人の一員なんだという思いが伝わってきて大変感銘を受けました。

次にパフォーマンス2では、同じく秋田出身のマジシャンブラボー中谷先生のマジックで、絶妙な秋田弁のしゃべりとマジックの爆笑イリュージョンで、会場をわかせられました。震災を一時忘れさせてくれるような楽しい時を過ごさせていただきました。また福島県P佐藤会長も飛び入り参加し、さらに会場を盛り上げていただきました。最後に、秋田県生涯学習課の皆

川雅仁先生が、コーディネーターとして出演者との対談でした。出演者お二人とも被災地や避難所を回られ、現状を目のあたりにし気づいたことは、大人が元気になるなれば、子どもたちも元気になるなれ、と感じたと言っておられました。

子どもたちは、学校では笑顔で友達と過ごしているでしょうが、家族のもとに帰ってみると、家族がくう、だから、辛くても大人が笑顔で元気になるなくてはいけない。PTA会員の皆様、少なくとも子どもたちの前では、笑顔で元気に過ごしましょう。



県PTA連合会副会長

羽金 潤子

第四十三回東北ブロック秋田大会記念講演は、漫才師の春やすこ氏を招いて「今、PTAに求められていること」という演題で行われました。大震災から六か月後の東北大会、一日開催ということもあり、前倒しで日程が進むなか、ちよつとふつくらなさった春やすこ氏が登場しました。どうしたらもつと沢山の人にPTAに参加してもらえるか、何が足りないのかをともに考える講演となりました。

まず、売れなかつた昔のこぼれ話から始まり、タレントの悪口で売れたお笑いスター誕生時代のことや育児に専念するきつかけとなったわが子の寝返りを母に先に見られて悔しかったことなど包み隠さず話す彼女に驚きました。

子どもは「つ」のつく間は親に恩返しをするが、その後は自立していくから邪魔しないよう親も子離れの準備をすること、親はよその子とうちの子を比べないように、子どもは親に言いたいことをはっきり口に出して言いましょう等、良い親子関係を築く秘訣を自身の体験から話されました。



PTA活動をする中で気をつけることは、子どもの前で教師の悪口を絶対に言わないこと(学校との連携が図れなくなるのを防ぐ)と、行事参加を募る時は一般会員を先に声掛け等で引き付けることが大事であると話されました。



・本宮市立五百川小学校 P T A
 ・大玉村立大山小学校 P T A
 ・平田村立永田小学校 P T A
 ・田村市立古道小学校

父母と教師の会
 下郷町立江川小学校

父母と教師の会
 いわき市立平第一中学校 P T A

◇個人表彰(四名)

・平田 州一 (県 P 連前副会長)
 ・平子 かおり

(県 P 連前母親代表理事)

・下重 秀俊 (県 P 連前理事)
 ・秋山 智樹 (県 P 連前理事)

四、福島県 P T A 連合会会長表彰

◇感謝状

・佐藤 厚潮

前副会長 他二十八名

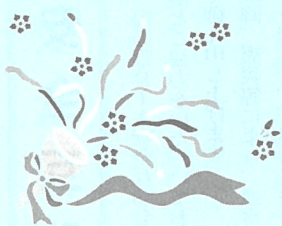
◇団体表彰

・伊達市立五十沢小学校 P T A

他二十六団体

◇個人表彰

・武田 哲也 (福島) 他八十六名



小中学校懇談会に参加して

県 P T A 連母親代表理事

渡 辺 さゆり

今年度の小・中学校懇談会は、例年とは異なり、三月十一日の東日本大震災、そして福島第一原発の事故を受け、六月二十四日に各都市 P 連から三十六名が参加し、子どもたちの心のケアや今後の P T A 活動について意見交換をしました。まずは、それぞれの地域での現状報告が出されました。

津波によりやむなく学校を移転し、勉強・部活がままならない子どもたち。そして受験への不安、高校進学、就職への不安等。また、両親を亡くした子どもが気丈に笑顔を見せるが、時間が経った時の子どもが心配である等。心のケアの重要性も話し合われました。

県北・県中地区では、放射線による被害がどこまで及ぶのか検討がつかず、校庭の表土を除去し、線量は下がったにもかかわらず、校庭で遊ぶ子どもたちの姿を見ることが出来ない等、「安全とは言われるが、安心へはつながらない。」という意見が出ました。また、夏に向けエアコン導入を要望するも

予算・設備等の問題があり、結果、扇風機の導入や首を冷やすスカーフの購入など、取り組みは様々でした。

今後の P T A 活動については、今の現状を受け入れた中で子どもたちや、私たち大人の心のケアを進め、放射線の正しい知識を得ると共に、報道に振り回されることが無く、正しい判断をすることが大切という意見も出ました。

今回、相双地区が避難等のためやむなく休会となり、参加いただけなかったことはとても残念でしたが、P T A 活動を進めていく上で、学校や地域との連携が大切であり、多様な意見を出し合いながら、具体的に私たちに何が出来るとか模索し、実現して行くことが子どもたちの安心・安全を取り戻すための一歩だと思いました。

そして、県内外へ避難している方々のことを思うと、一日でも早く平常の生活を取り戻せるよう、環境回復への努力を惜しんではいけないとも思いました。



郡市 P 母親代表者懇談会に参加して

県 P T A 連母親代表理事

芳 賀 敦 子

今年度の懇談会のテーマを考えるとき、どうしても話したいテーマがありました。

それは、いかにしてお母さん方のストレスを解消していけるか？ということでした。

三・一一の東日本大震災、そして原子力発電所事故は、子どもたちを守るお母さん方に大きなストレスを与えました。生まれて初めての大きな揺れ、津波、ライフラインの寸断。家族のご飯、おかずを心配する毎日。それに輪をかけたのが、原発事故でした。見えない放射線の脅威。家にいる子どもたちを外に出すこともままならず、用意した食材でさえ、半信半疑のまま、過ぎていく毎日。

子どもたちを笑顔するために、まず、お母さん方を笑顔に、というテーマを掲げた今年の懇談会でした。

当日、まず、針生ヶ丘病院保健福祉副部長の大森洋亮先生に「震災後のストレス・ケア」リラクセス健康法とカウンスリングマイインドについて」の講話をいただき、絵本の

紹介も含めながら、リラクセスできる呼吸法や軽運動法を、参加者全員で体験しました。

講話後のバズセッションでは、「子どもたちのストレス解消や心のケア等について」というテーマで、小・中学校に分かれ、現状の課題も含めて活発な議論が行われました。

浜通り地区の震災での家屋の損壊、津波被害、中通り・会津地区の放射能への対応など、各地区での問題はさまざまあり、これから解決しなくてはならない問題も数多くありましたが、子どもたちために奮戦するお母さん方の熱い思いで、討議時間は足りなかったように思えました。

各地区の思いを共有し、「子どもたちの笑顔のために」を合言葉に、明日からの生活に希望を見出した懇談会であったと思います。



安全互助会から

常日頃より、福島県PTA安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

三月十一日以降、震災等により、通常の流れとは違った対応で、担当の先生方には大変お骨折りをかけいたしました。

◎転出入の報告をその都度お願いします。

例年になく、児童生徒の転出入の件数が多くなっています。

本制度は、会費を納入いただいた後（今年度は、六月末日）の転出入については、「福島県PTA安全互助会加入人数の変更届」を本会宛に提出いただくことをお願いしております。

七月一日以降の人数変更については、「変更届」をFAXしていただくだけで、他県からの転入であつても会費の納入は必要ないとしています。

年度末に、本会と引受保険会社とで加入人数等の確認をし、本会が支払う保険金の調整することになるので、転出入の人数の確認が必要となるわけです。

本制度を維持していくためにも必要なことですので、お手数でも、「変更届」の提出は忘れずお願いいたします。

※「変更届」の用紙は、「事務取扱概要」の三十六ページにありますので、コピーしてご使用ください。

◎「事故報告書のフリガナの確認をお願いします。」

「事故報告書」に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見受けられます。

そのたびに、学校・幼稚園、請求者ご本人に問い合わせさせていただくことになりまますので、本会宛に郵送される際、付け忘れがないかどうか、必ずご確認いただきたいと思います。

また、学校・幼稚園、請求者ご本人に問い合わせさせていただくことになりまますので、本会宛に郵送される際、付け忘れがないかどうか、必ずご確認いただきたいと思います。

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認ください。多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成24年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成24年3月末日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」

年末年始の事故防止を

「飲む前に必ず確保
ハンドルキーパー」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されています。

●期間

平成二十三年十二月十日から二十四年一月七日まで

●運動の基本

高齢者の交通事故防止

●運動の重点

(一) 飲酒運転の根絶

(二) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止

(三) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

編集後記

三・二以降、九ヶ月が経過しましたが、原発事故の収束はいまだ先が見えない状況にあります。

県内外に多くの子どもたちが移動しています。これからの福島を担うべき子どもたちの流出は、大変憂慮すべき状況ではないかと思えます。

現在、小中学校合わせて十五校が「臨時休業」という措置がとられています。いずれも双葉地区の学校で、再開の予定は明らかになっておりません。

また、南相馬市では、自分の学校も含めて七校が、同じ敷地内で教育活動が行われているところがあります。体育館を七校で割当てを決めて使用している状況です。

仮設校舎（プレハブ校舎・ユニット校舎）という学習環境としては決して良いとはいえないところで、元気に通学し、学習している子どもたちの姿を見ると、一日も早く通常の学習環境の中で学習できることを願わずにはいられません。（T・H）

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。